



火山灰が深く積もった登山道を想定し、大阪府内の砂浜で中岡さんが乗った車椅子を引く練習をする支援者ら

夢の頂いざり一歩

手足の先から徐々に筋力が失われる難病「遠位型ミオパチー」を患う京都府宇治市の中岡亜希さん(33)が28日から2日間の日程で、プロスキーヤーで登山家の三浦雄一郎さん(77)札幌市に車椅子を引かれて富士登山に挑む。初挑戦した昨年は悪天候に見舞われ途中で断念しただけに、中岡さんは「同じ境遇の人に『できない』と思っていたことも、みんなの力を借りれば可能になる」とのメッセージを伝えたい」と願う。

【山田尚弘、写真も】

宇治の難病女性富士山に挑戦

大手航空会社で国際線の客室乗務員だった25歳の時、疲れやすいなどの異変を感じて受診。「手足に力が入らず、やがて歩行困難になる」と診断され、3年後に退職した。現在、下半身はほとんど動かず、握力もわずかで、食事にも介助が必要だ。将来は寝たきりになる可能性もある。発症後、できないことが次々に増え、涙を流す日々を送った。

しかし、「前向きに生きよう」と心を奮い

立たせ、難病患者を支援する京都市のNPO「希少難病患者支援事務局」SORRD(ソルド)の設立(09年)に携わり、08年から地元F.M局でパーソナリティも務めてきた。

こうした姿が評価され、09年7月の「人間力大賞」(日本青年会議所主催)で最高賞のグランプリに輝いた。

支障者と臨んだ。だが、強風により6合目付近で断念。この時は、悪路対応のタイヤをつけた四輪車椅子だったが、今回は、小回りが利く三輪のアウトドア用車椅子で挑む。

その際、選考委員を務めた三浦さんから「亜希ちゃんにも富士山が登れる」と勧められ、同9月に約40人の

隊長は三浦さんの次男で、リレハンメル、長野の五輪2大会でモデル代表となった豪太さん(40)神奈川県逗子市が務め、SORRDのメンバーら約20人が交代で車椅子を引く。28日にふもとから登り始め、29日早朝に

山頂で「ご来光」を眺める予定だ。

雄一郎さんは「苦しさを自分ですり越えていこうとする亜希ちゃんを支え、難病患者支援を社会全体で考えてもらおうきっかけにもしたい」とし、中岡さんは「発症してからは登山など思いもよらず、まして富士山なんて夢のまた夢だった。支えてくれる皆さんに感謝したい」と話している。